



渡辺 通子
(公明党 代表質問)

投票しやすい選挙に向けた整備を

問 直近の衆議院・参議院選挙では、20代、30代の若い世代の投票率が他の世代と比較してかなり低い状況である。投票の利便性を向上させ、若者が政治に参画しやすくすべき。

答 ①不在者投票制度について、大学と連携し学生に周知することが重要であるが、どう考えるか。
②期日前投票をしやすくするため、宣誓書を印刷した入場券にすることが効果的であると考えるが、検討状況は。

問 ①これまで、ホームページに具体的な手続き方法や投票用紙の請求書の掲載を行い、利便性の向上に努めてきた。

今後は、より分かりやすい掲載内容にするともに、大学などでの啓発活動に際し、大学関係者と連携し、学生への周知に努めていく。

②期日前投票用宣誓書を印刷した入場券は、待ち時間や投票時間の短縮など、利便性の向上が期待できる。

入場券の記載内容や紙面の配置工夫などについて検討した結果、現在の入場券で対応が可能と考えられるので、28年度に予定される参議院議員通常選挙から、宣誓書の記載を実施していく。



その他の質問項目

- ①JR宇都宮駅西口のまちづくり
- ②個人番号カード交付申請機能つき証明写真機の導入
- ③がん対策の推進
- ④産後ケアの構築
- ⑤赤ちゃんの駅の充実
- ⑥児童虐待防止対策
- ⑦宝木地区の諸問題



荒川 恒男
(共産党 代表質問)

市民の健康を守る保健師の充実と適正配置を

問 各地区の保健師の活動は、市民の生命と健康・生きる希望につながる活動である。

①地区活動に立脚した保健師の地区担当制の推進に努めてきていると思いが、保健師の活動状況とその環境の変化は。

②27年度の保健師の配置状況と平均担当人口、最大担当人口は。
③この10年間増員なしの配置人数では、対応しきれないのでは。

答 ①地区市民センターなどに保健師を配置し、訪問指導、健康相談、健康教育などの各種サービスを展開してきた。
少子高齢化や核家族化

の進展など社会環境の変化に伴い、生活習慣病の予防や認知症対策、児童や高齢者、障がい者の虐待防止対策など、多様化するニーズに対応してきた。

また、住み慣れた地域で健康で質の高い生活を送ることができるよう、市民自らが主体的に健康づくりを取り組む健康づくり推進活動など、自助・共助のための支援を推進している。

②地区担当保健師数は27人で、平均担当人口は19,327人、最大担当人口については36,064人である。

③地区担当制のほか、各課に保健師を配置しており、連携・協力しながら業務を行っている。

今後も社会情勢の変化や地域の実情を踏まえて適切な配置を行う。

その他の質問項目

- ①快適な住環境の創出
- ②地域の持続的発展
- ③上下水道事業
- ④LRT事業



佐々木 均
(愛うつのみや 代表質問)

歩いて楽しいまちの整備を

問 歩いて楽しいまちの構築と景観整備について聞く。

①釜川沿いやバンパ通りの歩行者天国など、歩きやすく歩いて楽しいまちづくりに向けて方策は。

②景観整備の観点から中心市街地の電線の地中埋設も必要であるが、早期実現への取り組みは。

答 ①これまで、オリオンスクエアやバンパひろばでの各種イベント開催のほか四季折々の花々を釜川沿いに植栽するなど、来訪者が楽しく街なかを散策できる空間づくりに取り組んできた。
今後は、オリオン通りへのオープンカフェの設

置や、中心市街地に点在する低・未利用地の活用を進め、多様な魅力づくりに取り組む。歩行者天国化などについては、地元商店街や自治会、交通管理者などと連携しながら、検討していく。

②これまで、オリオン通りやシンボルロード、宇都宮駅東口駅前広場などを整備し、現在、ユニオン通りの整備を進めている。

各地域の歴史や文化、街並みなどの地域特性を踏まえ、地元住民の意見を聞きながら、引き続き無電柱化に取り組み。



▲釜川での桜まつりの様子

その他の質問項目

- ①中心市街地の交通政策を含む総合的な計画（JR宇都宮駅西側におけるLRT導入の広報活動、導入前の代替交通の導入）
- ②防災・防犯を視野に入れた手元に届く広報ツール
- ③保育行政
- ④ジャズのまち
- ⑤宇都宮が持つ高度な飲料文化の発信